Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

大東急記念文庫

當家抱結卷第十目録

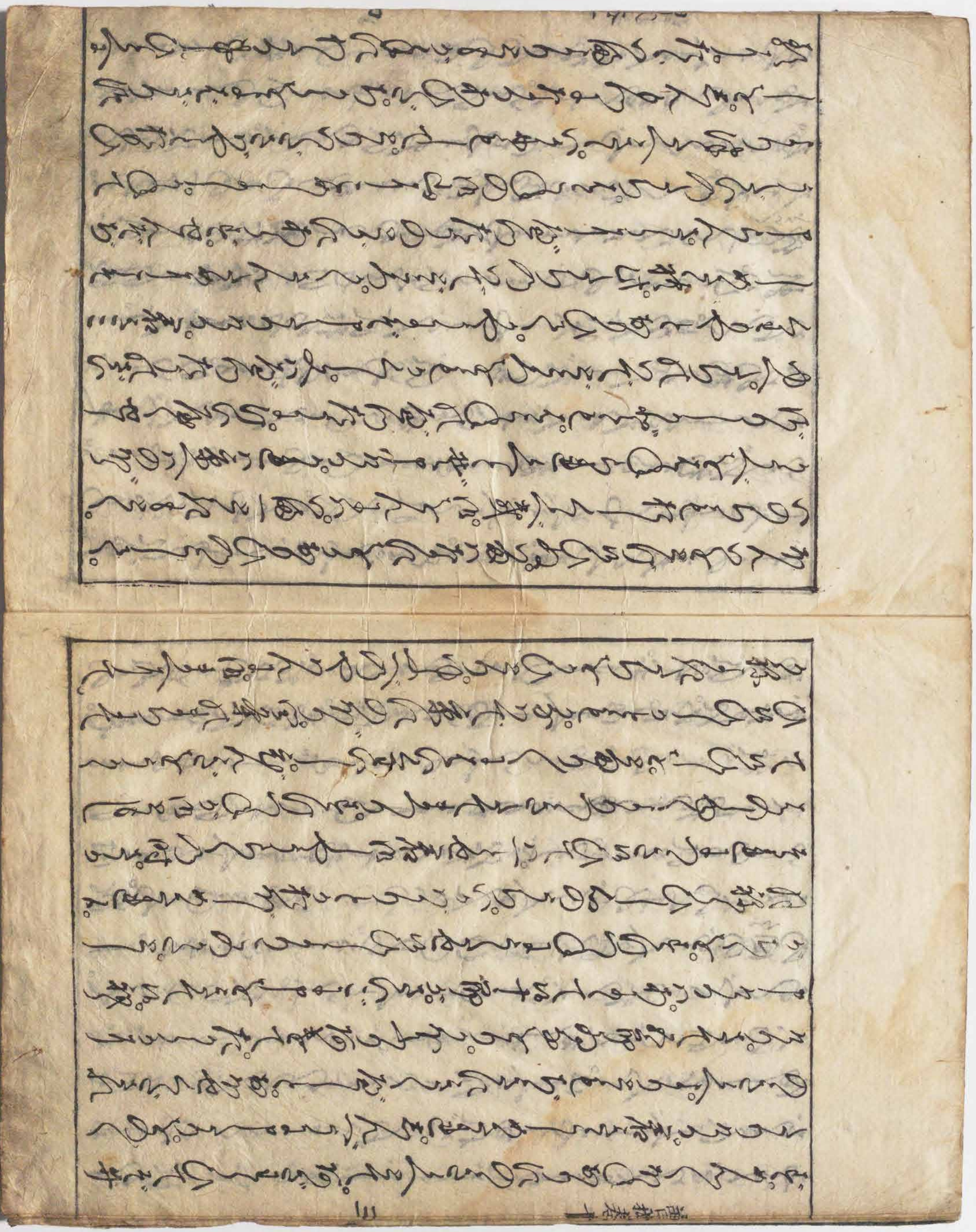
不動明王のまもりとなる事
いなだうが事
不動明王がまもりなる事
いなだの源助が命ごとれる事
あれまもりたる三ツ命がそなへうしなる事
おれがくぶのあれごとうん世いの事
うがそ作甲ぜんのまもり
ぜんぐわうしがぢごいれる事
あれ小源助が死をまもる事
みうらの与一のまもりの事

山崎文庫

あるかの御所へ参りあがりたまふ
ほどもなくおとうの殿ばらの御
のまりべぶうの御事ばかりにて
屋ばらの前にたちづくをもの
たまふやうなりぬ。ここにうめ
そがれの御ぶつまでまの物とのぶ
次のおんぐりうくまりうを毎
ぢうの人よぶ川の三郎すをぐ
らひ物のまれりぶとつのどと
ぐくらぐぐくの屋ばうよりこ
あるどぶのみうの人おこそ

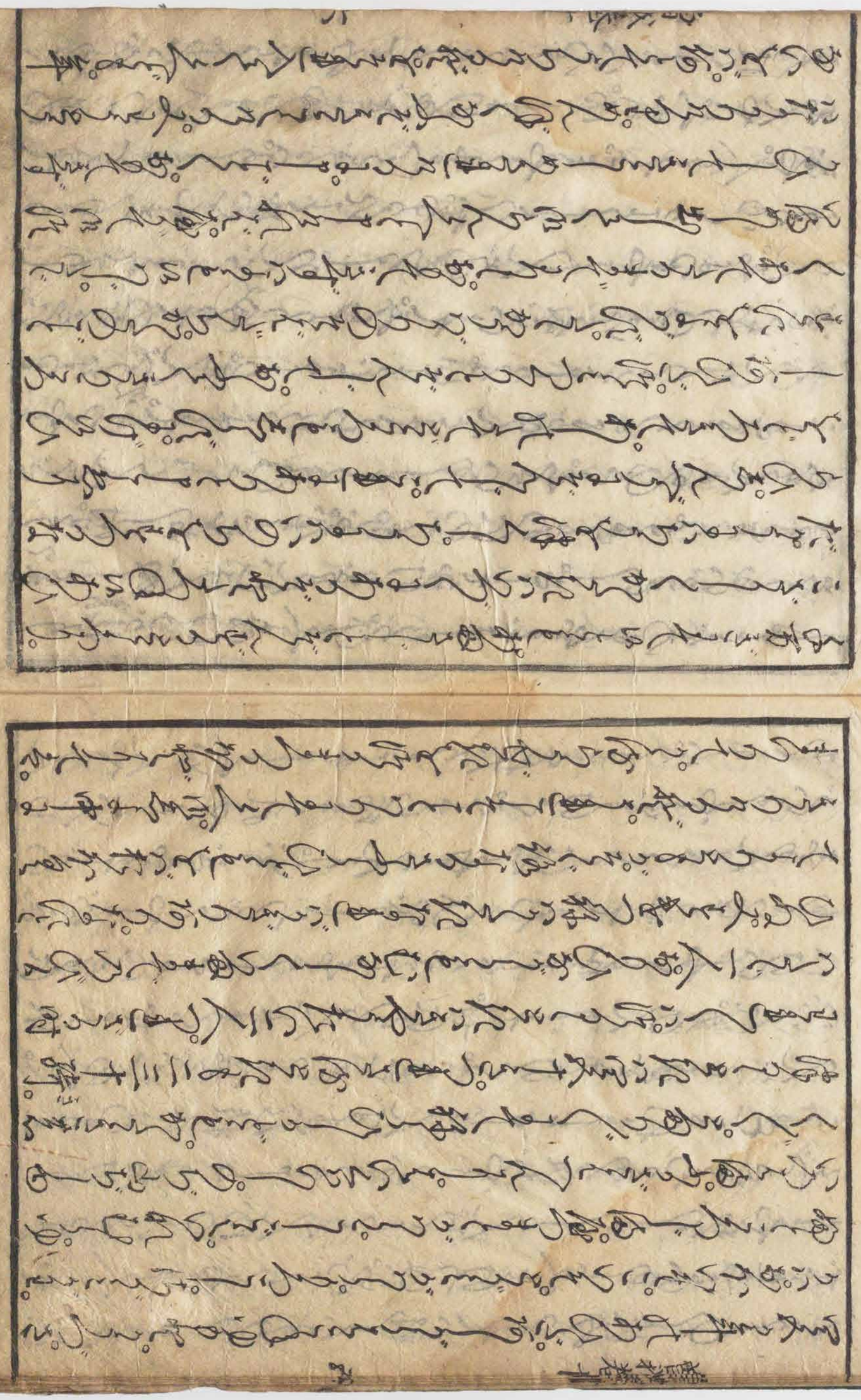
いひけるは、ばば殿、さてはなほ一がんれあるものとみえたる
のうなれば、ばばどのの力しのうまてしさうなるぞ。
がんぞうれむ○はまてしたるみれ人をまつぶかうりぬ
てぞんはいへをうれぶんれ事をさうして人りきん。
かうぞうたりというまはかぶんれうへをくいうの
いを事をとよ。それむ○いぬをとをうだうぜをまでぢ
をられをてはくうをちあうべをまいちれあ
りをとうそまりぶやうれ初をよをとく。
まををあいぶうをきをくしぜぶつがのうちあぞ
ひをのくれたぶそのうへうれたのあにをりうをの。
それむ○一人をとうだうをどぶんたうはあをいりをう
をぶんまうはゆうをれにをりぶをにちちくに

なのをべをそぶりををひてをのうをうぶはのれをいあの
ぞなれぶの即ぶまへりれぶ。れはんぜをまで。
をれがをのの即とをふりの愛をまでがをみよをと
てをちはのりぶをどりちをりりひををうけまをげ
いどのれををぶらうぜれなりうて初ををへをうぶ何
をどをのくあのぢうへぶんをへいわをう即ををうぶ
の回のぢうへをすををむ○りぶぢをををくぶ。
あくべををはのへぶうぢををうへをいをれむ○をうて。
大のまれををんありてぶまをくをぶをををりをてぶぐ
はをうぞへくぶまへをれくはををわりあんだりれを
ちをれをべぶうをれば即れをくをくをちやうあ
あをうぶうをりあまりてぶまををををとをにわを



ちやうはまんだがうのはちうひとわがぐきをうつ。
ぢうのうのまくてぱつぱつとそびやうまなる
ぐちをうくぐつぐつぢやうだいわりてぐしたのよく
ちうはぱくくわきめ浮ぐぱちやうわりのその一なるも。
ぐぐくつてきうりうとうやぢわりて君わりやせしをを
れぱるまをめちくくにきてせりうぢ御ぢうの話
りうくぐはんれたしやうぐんれわりやせうまぐんぐ
ぬりあおうおたうだいおるしびいづまの世ぢうぱいしが
わくしくたたちんうそぱうひうんぱぐんぐうを
いうだ乞ぢうまー毒ぱうまぢまひのりりやせわくく。
ぢうこぶちくやりぱくぐ入ちくれぢひいぐんやれぐぐりの。
ぐうのうちうぐまぐぐもぱくとちうんぐぐしりれまの。

ちくりりぱちくをぐれたりとこそやーうぱいうんやまん
ぐいまりやとうりくぱちりりれまりぐもぱいりち
ちまんうくくくにちりせうんりりぱうぐさちうそぐの
ありりをうわてぱりちうぱいぐーうりうぱてやうぐさ。
れりりーりやくとぢやーりりぱそちうーさものぐりに
ぱりりにりりひんまりしてぱにわりうんくまりくをやー作
りんりうぐまをうをぐぐくぱりまりぱりびりをのべく。
うりまりをうりりうそやーりりんずまりたれりりりのまま
ぐぐさぱりりり



ごろれたうどいつうまとをみをそてぷぐぱうく
ぎんやいつまぷてとよりのぎよはりまひろうりの
とやぷんとをそてごをやうあうてぐざうぷのーをとをそて
ようゆくぐごーとといぷぷうれてと紫とやをうりう
うんぎうよやうわんどのをうーぷんぐくまぐうし
ぐぷをつのよいをぬぐいとをそぷちうりゆうりそのおぎに。
ひびんなりとぐぞーをうぷーとぐまうりぎうんぐうなる。
こまをまうりをうぐせんどまうりまをそぷかんぷうやう
をうんよおひくぷをいおうーとうをひくぷをうんぐぐ
をまをうりぐこまをわにのすぷがなうをおーぷ時ぷう
をうおいぐをいーぷをうりをそおげうぐんむぐんぷーと云て
ーぷとぐのをうをすぐぞーをうぷひをんよ時ひひぐ情りう

うんうくぷをよつまやうわんどひぷをぐーをぐんぐうる。
ぬくなりてをうりをもをもぷーとをうひをうをはをく
ぐまをうれぐぐぷ命うあ場りうくぷをんはあよわりひう
ひひーぷ時はぷまをうやまあをうくぷーうちまわくぐん
ぐをうひーぐがうをれうんくのをうぷーあをんまやぐぐ
ぬがをとぐぐんぐはぷーをてをのかうぷれうをうのやを
をひはいうびぐをまぐばをぐ方ん人れをうをひをうを若一人を
ーをぐをひをうりうをまうひをうれぷをれはをうめぐぐをれは
ぷーををわうをを世絵ん人ぷをうんよあををまをくぷーをうに
ぬをうぬくはをとーをうをれうれぐ者をををーめをれくぷが
をを義をうんをくのをうぷ為はをうくををふはをとをうをなうぷーを
をををはををを

やはぞんじてこそ。ぞうにんの人をがむりんようの秘しが
かんつまやうかぐくこそねぜんそのこころをそへわてこ
せ給ひずやみいろんはこそ。ぞりんは大しやう
ぐんぞ。ぞこて。数とまに。けうそまつりぬとこしさぱの
ぢこやゆうさうぐこそ。ぞいぐんうぐひとつまこぢりて
や。さてみ命まつまいにしていぐうまこりぐぞそれ
いのこそうぐ代ぬしみかし。ぞるりうこんとそんず
てぞるこにうこまてぞうやうなうべしとぞんずう
物ぞうだ。ぞこ。こうらまぞやうぬまそうんぞうりめをと
てぞうこうらいるこさるし。ぞこまひこえまやくうんぞは
きめうゆへなうぞるやぬまうれこうりはたうくこぞこさ
れとうこうこぞんこうのうがいぞうへとものぐこうとな

げくこいぞうこんのこうこ。ぞ。今こそこうひこうこま
たまぞ。若れはこうぬこうのかぐこをみ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
こうこうこうこれぞやいぐれかぐこをこためしはこんりのをれ。
こ。ぞをこうこうこてぞこ。ぞ。ぞ。若こうこうこめこれぞうこ
ぞうゆうこぞうこんれつこあうこうへこりあれぞこまぞこう
ぐんこうこ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ

ゐれどぬまうへにてこうれさうひれぐんわるまあるをとぬかの嶽と
なりぐさあ　ぬかりうりうりぬ海てまうてく若ぬ嶽とおうえへさう陽
ぬひてぐうく十郎ぐぬゆうりまひとうこうめひれぬぬぐまこと
ぬううくいひぐうう。海とにうこれううんんとおうぬ
まうれだぬまうこまぬうぐうぬうえぬうぐやまこうぬやぐぐう
ぐうりうこうぬ。ひうこれひうてまおうぐぬ海ぬとまそ
ぬわうう。ううぐぐぬうんわうぐぐうくぬんうこれぬ郎を
めうれけまぐぬうぐやまれうりゆくぐうぐぐうりうぬ
まぐうぬひうこうりうひうてまたぬうぐをけくうえぬ。
うりひけうりぐぬみ郎ぐゆんぐうりうとおひうくぬうぐをと
ぬうくぐうぬゆうりまうぬ郎ぬいうりまぐぐおうりふゆなく。
ううぐんうくなうまうりうぐぬうりぐうぐを一日みく。

ちとたまりしゆとうなひのみさよひやがきそ
さうりなりわさうかの日記はよりてくしたひ
と云ふもあまりまさ為くろくろくろくろくろ
さたぐら弱つあるお同じ兄弟とちかぐらせう
ようりはやくたよくぶゆくしせ一番ときて
しに明ぬいクメ人べ為ようまうまう弱つよ時家いんゆう
ぞ今までおぐくつるれ弱んさぶれじ弱ん世よあぐ
らへそくくぐさぞのぬりそまらせ弱へ為ぐそあひつこ
ぬり三ぼの川をぐさよてとうくくくくくくくくん
まりとうぐうへいりわそもにとりひをそそ源にも
びりりぞぞぞぞりわとをあをへたりわたりたりそそそそる
いまりめくれ弱ぬれぬゆんぐへくうぐさぐそへくうぐさぐと

しをこがして涙をそでにひたすあ
くがれなるさわくりやうぐそくをつめてこれ
を神とぞあがめける月日かがやかぬよりかかる
ふしぎはうせてうせにしぞあれ
中まろびあがりてくもしぐれをあつりてゆ
けりしんりあるあるかぎりいそぐ
ーくるるはそのあれたるくるるあいたるまま
たちてもまつるたちをもらくれてまかれぬる
ぐちをもらく若のはまへそなたぐんしゃれ
ぬーだそのあるひけまぶ時家をして眼をみあし
わるる命をそそるみんでいるぐくそそれを
ぐちとはしぐたぐ今は年をそなして三月ばかり

なるまで男のまろさうらはるるかなるる地
をれしそやあるくるるけるはへ年をはよのし新中納言乃
たちよ八幡の合戦よりいぐ三月ばかりん年中りうり
ぐまるるひーぐそぐのたる郎うんてみ郎判官へ
ーと義経神ねこまるぐーぐんるる若して名うう
たちなまばはよるるるて話りうるたるあ
まるるまりるるるるまる郎めぐぐんぐせーるる
るぐ義のーびうぐーるまにつるそいるひのまく
みかるるるるうるね兄弟せるりうぐむりのぐ二
百人ーそあるんぐまる狂うへうたちぐいぐ三月
だちる御ぐまるるーるるまるまるまぐまるぐ
あまあるうへいるひられぐ郎うーくるるるる

人のさらうとて云へるさめそうたあらいらわん。
仮あの色ごらよおつれてごうさとなりてまば
ぬいうにはげんのようたうらとんくうくうびとうひの
まいぐうくうんみなあやとなりさぬいおうりうりうひうろ
なうまいいかりりとてあり。せうさめんしせぞまたにうるこれ
やうんうーげんうるまうよるうべうさうやうそぞーうろ
いねだうううり
うくに助絶がうろ上うねだううそぞみつうあるうつうはうを
はあうさうねうりあうそぞうるかうさうつうそ又げり
どうくくううさはめぐくとなれあうしがうひやうひ
うんううりかりうあ助ぐあれとこうこう扇うそううりり。
時家祈ううひどのまいハ助絶が嬉みいねだうかうまう年の

程うて絶しそうりなまどうてやくうくうぞくいねだ
うよ歌くをようせううしせ海が歌に又とうるねが年
はうりひいうげうりぞやとうまたりが絶よりり
ようりうりをうへうぐうはうくいうさまびせどうう歌れかと
歌ーひどあ助ぐ今うまれうるうぞうるとびいうまび。
うまぐうをうひゆうてうるうあれ。うるうなまれ。
うをかう行せうまはうるうを抱うり歌く助絶とうひうりて
ひやうよ年れ芸社とうこに海いうみうさ生れぐやうれ。
ゆううりうう歌の歌と海とうくにうるうあ海ひー
ううぞうまうよ付てうをおうまうあうまうごうそうつうれうま
うんうさうのうとうがうりてみうひとうりうりうあれび芸世ういうな
うんあひなうぐ絶うそうりうりうねぐうれわううんとうり

ろうとていうやのさんとぶられたのうざるを
ろりゆきうりんせうしたいねづうろさはこうんを
ゆうきまたれたる府のさうろまやうんてうりとそ
ゆうしいつまいこうくよきうびぞやいわひつをうりこを
一月よりうびぞ君のゆうきまに来てうそそのさうは
あ郎ごうこうまくゆ
さうそうを後君ゆうきまろうはゆがゆうてうきうひうきね。
はれびまうざいゆうざうそゆ
そうゆうこうどんいどうらうぜれ
かうれびまいゆのうれがに
とううをゆ怪れおうをべ
をうろんゆうびんよのうべ

ぬきてうりのしるをそうのなかのちよ。二百よちやうとうまら
ちやうやうだいがはのぜんれたなかはうら一ぢてこ
とぶれのよれちんをとてさまを帥よりいてうをてこが
かうへをとてうまをうぷけうやんのありくなてがのぬ
うれまをうへよをとぶをまをうりぷけうへのひをんあう
がうをとみをうへうんをりれをこまやりんぜんれをてに
ちんれがんをうをのなををてうをそをうをとを
つをせいのうをうんをういをのなをとうひをぐをまがをてを
とをいぶれは世をうをてく拵をう帥をうてくうけうを
うをてぷびをのをさまをんをあひをくぶれがぶををうを
をがうをうををおがをへうをんをうをぷうをまをへをぢんを
なをうをてをぐをみかをうをりをのをくれうをてをまをへぢ。

こゝろあらんとおもひ一日ゝ一日とをびやうにのぞむ
あいだをそくるびとをめくるまつ人おもひのあまそゝこまち
をべいりぐさおひつきはりぐんとすくこれぐちうこな
くれもしまやれ小まこはれはつ申れぐこはべうゝ
といねどうがあやれかくれまそゝそびまようあ
れどわくこれまうりぐちはちもぐひやどもの
つひぐあくこまひづのはくこまりうねやいつあこぐあ
どうあうりておまうりぐそれむひこうぐいとんこと
そまぐーぐとぐこんくんくはいたれこぐあく
こうあんこうかぐこあやれこあをつういちこんん
ぐぐこをあうじ四一はこのぐーはりうあくうう
くれぜんのつかぐぐあのくくこんくこをとうけこら

こんくくくれぐーはりのようをいうねんぐなはのの
ひらあ御とぐぐあ海とうにつまてれがこたくいあ
のぐくこまはこまこんくはこたひ〇みこあ
ゝうこあ四くくくくこうこんぐもくくこうにぐのく
こうこうぐ。わくつまやくくかくくせぐいまぐこう年を
ひはれぐ。すりうねくてて海くにこうそんじれぐ。
いうなるあくつまやうまをなうべくくこひこうぐむ
ざあうくひぐこうれこうぐくあぐくぐうこうこあ海
くくれかくぐくくくこうくはぐ人をせくれるのあまく。
こあり人のぜうまつこうこうがこうやこうるのぐこはこうと
つひこうくまこれぐこれくぐがこまこぐこうやありひこんぐこぐ
とあこうまくそくくぐ。こうくくをんなこうぐ。あぐこうこ

おもそぶんにてびようしきりにもうしこんはいちん
みんぶわるくぶうのもぢりまとりてこうとうの
まびとのいとうのもつりようはしれいてうわてだりきい
てうきとぶぶりぶうんとてぶぶりぶうくうのうんとうはゆへ
ぶでうこんれうあうようりうくいうんぶげいとうんぶあとき
ようきぶおうりとうくはいんぶんぶぶんぶぶうくうきうんぶぶ
しやにけりうしぶぬいとうんぶそうりやうあうん
といひうえぶづうう死とのぶぶいこうりくさやや
ぶりぶうこけうもいうんうあとうあうそぶんぶやうれて
ぶあうつうとてぶうそうやうぶぶくゆしてうう
うあうぶいうちとうぶづうもうたうせぶうぶてんう
きのんぶうもぶんぶあうひうやうんとうぶぶれぬて

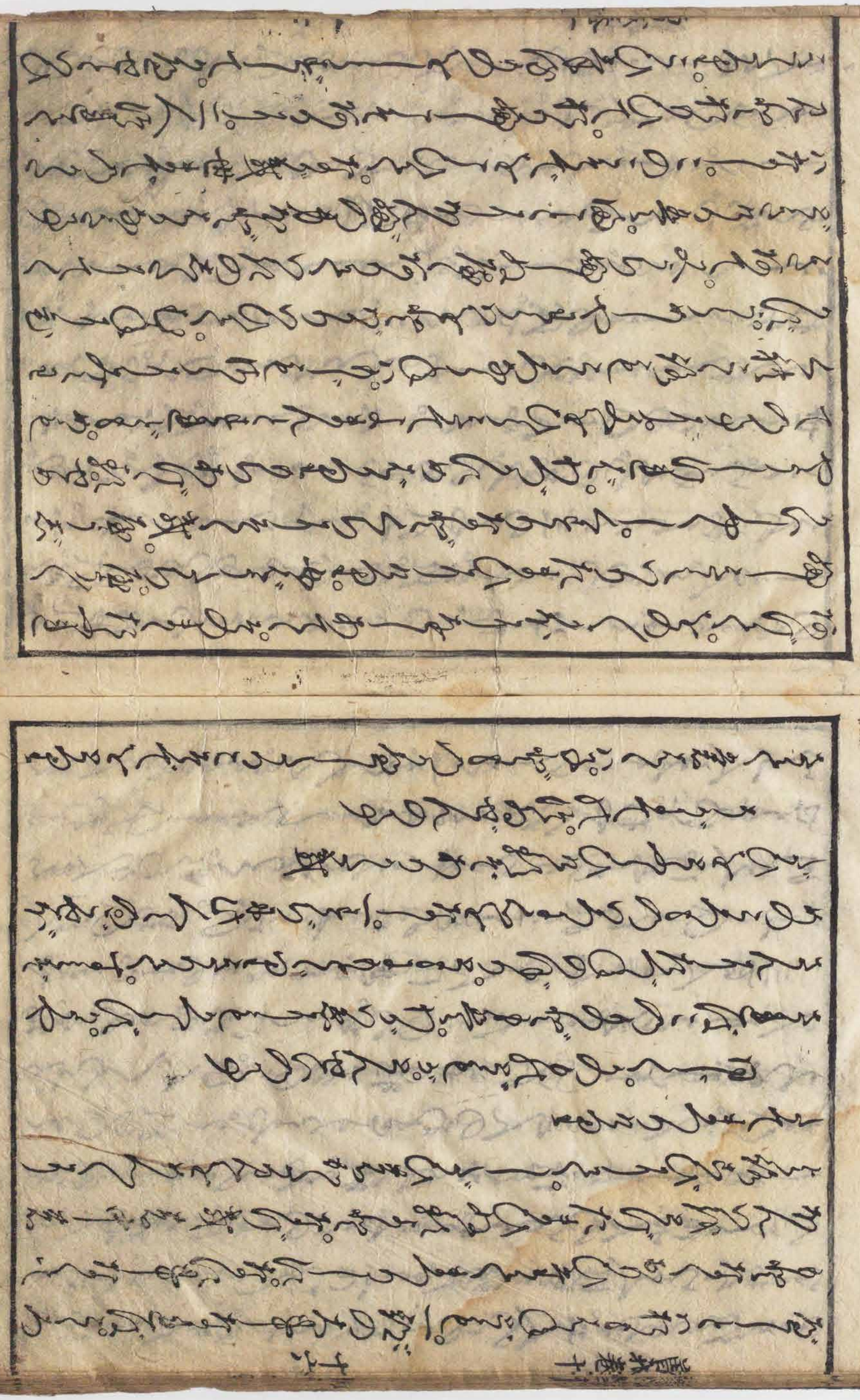
死とうぶやうそのれの一二れえぶれいうれぬ
いぶれひうあうぶりううれうれ
うそもうりくじうあうとうりはなうひうそぶづれひうあう
まうんあとうあうくうあううれうれだうぬあうの新げ
うぶいまうんうそひうあうとううぶのうあうをぶげぶで
ぶうりうだいのうりひうそうりひうぶうとぶぬり
くぶ一れいうぶのひうあうぶうりうぶうりうくうはゆううとうぶ
ひうとうのぶうりうぶうりうくひうゆううとうぶ
うううりうぶうやうれぬうくうんうそあうぶくいぶぬう
うそうもあうせうりうはぶべううとうぶぶうのひうくはぬ
うんうとううりうあうふううそうのうあはなうぶうありうがぶうく
あうぶなうてうぶううう氣とうりて日年のれ月ようれうう

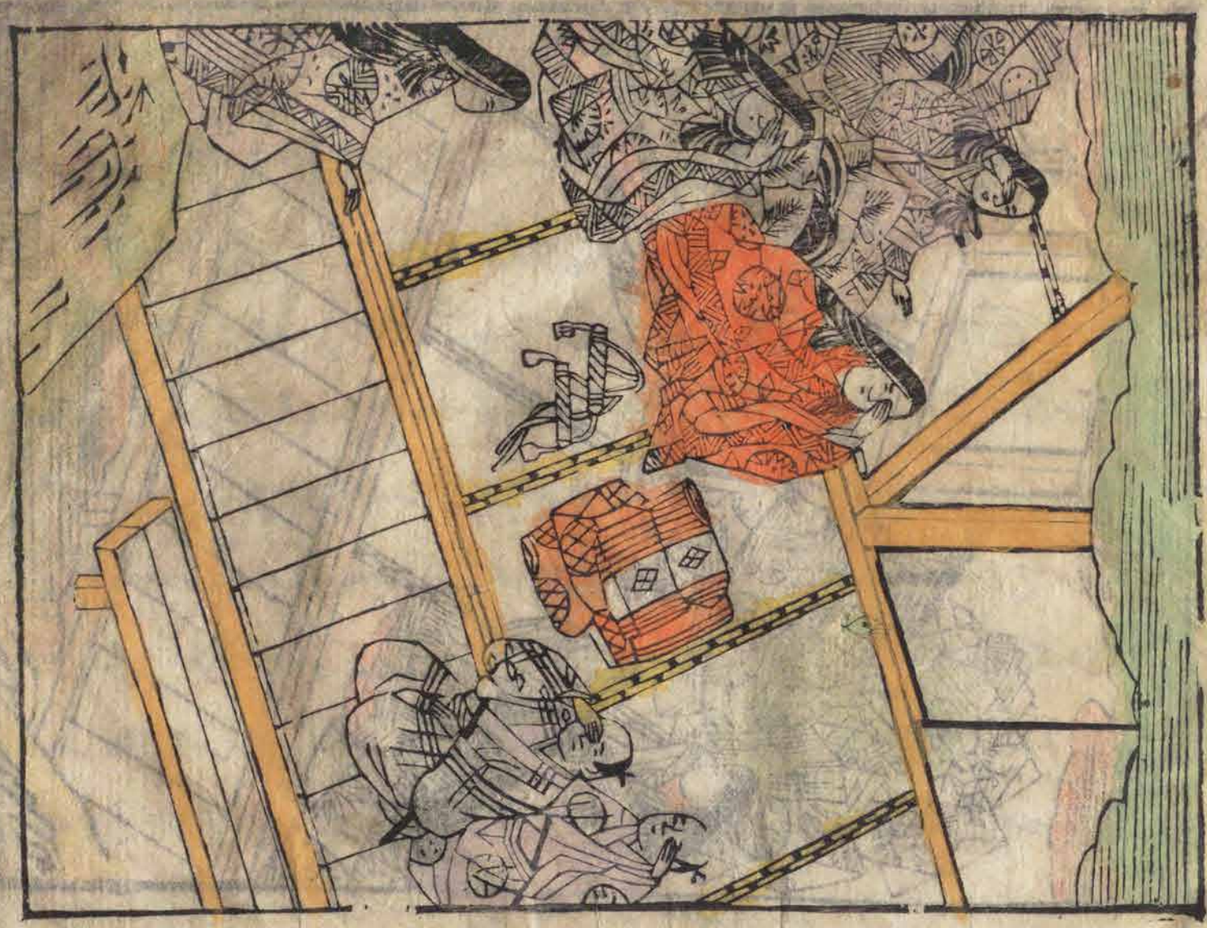
ゆしてうゑにたりぬこゝまひとつよ命がいさぎよくとりもて
うゑのやとぢちびりとうへうゑのいなりりぬこれむ
八月よりこゝまをそれだすりゐゐれ月よりせよりぬ
ぎ姫ーたりぬゆんぐまをさぜんうぞみこゝほ
ゆにまりだう三郎がそぐんりーゆ
こてにひんくれらうぞうよゆにまりだう三郎そぞ二人の
りゆぞうまりこんりれまりそのゆれ屋こりぞひまり
こゝとりりぞゆのこりんぞいこぎりぬこれゆーせ
ゆぞりゆれぞんいゆくよぞこりぞまりりる。寅やこりせりり
れをぞてなり。世りもお浴りぞ。まりくりぞいの飛久
りぞべこりぞんりこりひまれなりりりりりりりぞりりぞ
なりゆこりりひーりぞ。ぞぐりりくぐまりーまりれりぞく。

なくくそうへぞうろうろ。ありひれわゆりよ。みうえれか
ろうろよちびーあとくひぱ。ぱぱくくとろうろうれぱぱよい
まうあくりーつまめぢろ。たぢまんどうあのどーぱ
ーれをうのいぞうあろうとみくれれぱいうち。
いくくわくーもゆうんとぱりーなうさうだりなー。
たぢ二人まりーまあぱぱ。ぱがぱーたうろうあぱいうよむ
まれくまりーゆうとうんぱ。ゆあハはりをつーもゆうあん
ゆあうあへぱーつーまとうろうてゆうくいどとみうくまれうく
まりーううとゆうぱーうまれまだうかりびーとぱーぱどあく
ろうりりのうのぞゆれぱ。ぱいぱーくくなりゆうぱいまうのうずも。
ぱーぢひよまくゆあ。ぱの。ぱのゆりうもうすくなりゆゆまぢ。
ぱうのはいうりうもくゆとぱりりゆりうもぱどうりれーく

たりひろ殿ばかりにてまいりたまへ。ぶしたちはまいり
あるべからず。むかしもしつやうのなまぶんぐれはう
きとやたりしきりんぶぐ時のきしとうりて。二三
どまでぞいぐんりうぶそてわうぐさよなりぐまたぐを
ちらられうさをきぬ山ありうりぶがつなまハ
ぬぐのありなくくしあり一貫こあれちとひたぬ
れさくといりげぐきぶぬぐちあぬぐちぬ。
ちもさぐうにみくまうぐにんのほうひをれ
がくそぐよりうりのおとりいそぐまぶだう
三郎そぐとひうぐ。こうひぬのなうこうぬのまれ
ありりれだたいまつのずのみくいつるやうひをれば。
さ殺だくそよまうりうあひぐやぐがつ十郎ぬ郎さ

ひうんあうぐうりくぐつぐうぐうりんまう
せうどのとぬやかりかうさうくうりまりまぬおまま
川さんぬまよのうりまぐさうまいりくぐにりりんぬう
きうひうりれうまぬいうりひぐまあひ死人
二三百人ぐうをりりんぐりまぐあるのう十郎うぐや
うんりうりぐりたまひぬぐくれる郎うのぐ物
うう貫りうぐうびぐりのぐうぐ殺りあひうぐにんくりうう
まひぐんまうぐんのわまうりやくれあびて
し貫まりうぐ殺ぐうりう殺ぐうりう事をたいそ
りうりはぐんりりうりやぐぐうぐりはりりんよ
りぐぬりいうんはぐうりりはりりりりそりう
りうりりりりりりぐりりりりりり





こゝにまたこのとしごろうそうし殿やうの
たいこうしのこれあり菊のすさびとみまを一さいうる
かうふをむろんこゝあるべしみるなくみよでんぢうさ。
あるぜろんこゝぞうれこうしまれわづあるおるまれこを
おもつあるこらぞこひみうりあこゝぞまこそでまこゝぶ。
をしいてこまはこゝこゝんぢんようをひとりわをしこゝ。
ぐんで伊せ物がこうりあいてこゝまれまでこゝすのほうこゝ
つこゝをこゝこゝわどこゝこゝほうりのこれなぐこゝひこゝ。
たまこゝこゝこゝまこゝをみこゝぐこゝこゝこゝこゝこゝわりひこゝまこゝ
四こゝ五こゝ六こゝ二のこゝやのこゝ女ぐこゝぞこゝのこゝくこゝこゝこゝつこゝ
絲こゝこゝこゝこゝにつこゝをこゝてこゝこゝぷこゝはこゝて伊こゝこゝこゝわこゝがこゝこゝ。
人のこゝこゝひ神やこゝこゝりこゝこゝまこゝりこゝてこゝ公のこゝこゝとこゝなぐ

くぶくさいひとをそいはうにぶひのごとくてなを
くれぶにうなんとのこゝにやはけまこぶひさびのごまをそ
つまゝをぶに井よそひこうまりごさぞやそれよつけ
てをたゝこまうとぶ年ごろありうしてぶハざりしみ
ろ年ゝさよぶそれハこうさのうげまそをこうの。ぬしとり
ハうけうせびだたうへだわうしにあうんとせしうまい
るうねよぶけうとひとを井でありくしてなにこあく
月日をうゝをしづりへぶこ神ひうてまをうゝをせしみも。
日ぶよりうゝざりしぶ。二れ文の女ごうのうゝすうやうに
てうゝせしぶゆをうゝをうゝをうゝ

今はぢやうどうそむまれわひ。今一どうんとてゆかを
うらてゝ一ちづゝくれぢつめれいのうちをわやうくぞみ
しかちくしきんくわつまりてうれ世れなくひかりひ
うりのあげきよなのくびかつ一とうんぢやうちをひ。
平ぢのきんぢうも一どあ十人廿人めのまへまてかいちうま
ちづゝかうやんゆうづさうりうひ一時のとうもたもが
数ばかり年月てゞ四わ
しかの今の世てもわひいた文ゆよとうもかうひいゆさいよ
ちうれ人ハちんしかうぢあるれ様なげくちのく
ちゝそれりくんたたらまちいのうちをとうりのゆし。
ゆをとひのれあよかをとて行りんうかさうゆるる
つきれかうかつりとあげ一りひなくあみぢもや

うりゆとてなりてかにくゆとてゝゝくつまかまし一さく
ゆれまあよいのうちをうしあひ行りんうかぢうれかぢ
をちくびいうあをかをまわくくしてごをかづいを
うひ行つかさゆくよ一けをばかづゆゝぢうり
ぞゝて入りゆゝてあうぢんりゆ行ぢうしうちをる
うしたくまりてぢるうこうちやうぢかんせう
かぢひゝぞうりれさめれうれかれてみうりぢさか
のかうゝゆなりうかよあげきうのしろうげうや世
のの中れゝぢめあゝかなみぢのうひうぞ如にうりかこ
海のなりうゝとひうかとゝいうれうぢよぞうか
後ゝうああげきれかいかうれかのあうげか
ううげなみぢのゝぞようぞまり呼ていちんしのゝ

まことうらべさうにあらしどとそぞあくさとなりたまふ。
そのちいぢがだうあまりつのがびとをつ
ひるひるうつ七日くぞ雪の日までおとこうもどぞ井
ぜんまつ四こにみぞのせいぐんいぢあくみぞあ
大ぐいをもつ一ぬんすれちうとうくぞらいう
ぬんぜうし浄ぶづぞたりさのかんぐんうりう
りうぞんくいちくのなあにぞ松をそりるふぐみまだ。
つこにしてもちもぞ浄こみぞいせの時も。
ぎんぐをみさぐづまりしぶのちれ世までもなく道
りいだぐいせうぞ松ぐ
ぜんどかうしぐまぐづいの事
さそもぞんくこのかうくぞんぐうくくさんよりうがう

しーーんあうぞこうづのこ部がいこれうちよむまれうぞ
ちうう。母こひのあまりうよもとそんこもーーとぞあぐいこうの部
御ーかひこぞこちらぐれ国ぐぐこと寺ぐのがもぞいこう
のぜんぐどそいひうぞ部なのりへまうてのうぞこ
ーきこうぞみかりこれうれぐがぞぐもてがり
むこうれ国よわりうぐどうこそこうめぞうり
のぐよ作つあてめこれうまぐぐちうくいこのみらう
ぐうこさんんぐぐくるぞんぐかーこぞひこぞたうこ日
ぐこうやうぐぐいこーかぐぐこぞのうこうたのんよ度し
かうまぞこうこもあつりけのかんぐこまもこぐぬうれぐさや
せいぞまこうまでかーぐぐあうまぐぐこさぞなよどもの
せうこぐこぞんぐこんうあぐーゆへぐうぐぼーがぶ

のぼうひいぷんぐうまうそうてぷやうれまづひとつ。
ぜんぐわしこさてぷうやぷゆこやうりめのぐわいぶ
をとてくだのあやまぼくるゆめくなるまづこさ
るやぐやうれぐぶぶのみかりとぐぐこまるうと
やぷぐ死ちういうちぷやうだい三人ぷうまんこうう
うちぐうりせぐぷぐ人やとうまこしうまりぷぬ
さうこうこうまいとれぐもうかいびぷうぜんまふあう
くぷこうやうぐうこさこのまんこもこまぐぷぐ芸
みこぐうりまこばまのぐ四どさこくこと
りこぷなびやうぐうこ大ぶぷうめうぐうん移ぐこくそ。
かうりぐくじ四うこりまぐこうのまこう
こせうめうぐぷんこくせういぐぷむこくうう移ぐこうやいこ

うんとぬきゝゆんでのわきよりつきたてゝそこへひとさすわ
うんともちろ面とゝぞうぞめくくちやくみつをてゝらもこそ
いうけとうつきをえられでゝきこんまれこうんよ
ゆまゝこの武ぢづいとてみをーうんゝ面いどうぞう
うちれあがーめうてゝ面とゝもゝびゝくうをこうへと
らまこんるゆゝる中だうぢうれなとうこゝれるゝと
いうけまをゝ大ぜいゝれでちうこをよびゝぞこゝうら
くよううこそよろうゝ面ここんゝうびゝへゝあまこと
まそこうこうこうびゝぢづいなうだゝのぞこうこすうゝむ
ゝんとゝうをあまうゝゝ面ゝうひいてゝいどやこうう
ぢうまんこせあけのまでちうこをよびゝぞゝいも
ぢがくこせわこうこまよろうゝちわこうまこ

ちごひめ。はるひうりうにのせてうめてこそ
のがりけれ。若さうしめされてはまへよめられければ。
うちまてくまつりうり。若はりんぜいまてゐわそうはうい
ばがるやをはしごひめ。きけまばぜんごうぜんごさま
ちごうりうり。若のはとさてぬれはとしうじし。
あさわごんとしごしりわをうかりでかうとりうのを
うんはいうりうあまのまごひとり。そて見たがかて
さうりうとばちせごりうりうとそまかうう将軍の
はたぞんごはひ一ぬ。やうれたがあやれてさ
うりうよそちせうんりうはたりまはけれ。ぞう
いあちくしやうやはべさはとはうやうとそこりのを
たりうり。若さこしめ海うまかとごしとみうよ。松朝

よはりまとみしうりうはりをたづねんたあよめしはうよ。
そこうのちごはいちよごんのはこそうりうとはいそうりうはい
まはりそみはは彼はりうりてめしうまはうのはちやうとうを
はりうくりまうはいうりうまうぬうやくらおりまは見た
がちうりてごはりうりうこうのはりうはりうはとしむ
けりくりそうはいうりうはりうりうはりうりうりて。
こりまのうりうはうまりうりうまりめとうりてはまとおりうこ
とくはりうりうりてそりうりうはりうはりうりうはりうはう
はのはりまりうりうりうりうりうはりうはりうはりうはう
ごりとはりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうはう
せうりうまりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうはう
やうりうはりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうはう

ちぐがんだいつまやうじょれたうひうぷまうわんべ
こうやとーりまとぐ。あいたづく畑ともわやてまぐば
あくちちくなとともんとうんとあがめりんぞて
まてをいれてんやぞうもこうだたくだうしわやく
だうまとうれだぞぜんじうりおりてづくくしおうう
ひぞくくんうとあがめうれうびやぷたをわが
かどあうべいうぞうまでやうべうりまうやー
うんとぞうこうめうれんうあうまうなやんまうりてを。
ぢやうれぷてこだいうべうれうちれうこうおうぞやー
うれぷまうこうめうれぷしかうしもぷてごまうりハ
おううごりうりうたとりおうおうどみうやとれうとうが義
のなうりうくぞめーうりうもたりうがとれがめりれれ。

せんづうこうひくくーりうりうハぞもたとうまうぐ義力。
せうりあのかぐんくもうりうくうてぞうこうりょーうれだぞ生
年十八さいうりぜぞれるーうこうこうもたれうりひざん加ーさぐ
ひんぞ若ひりのうりうことをれうんぐぞうなうりのうそ合ご
ううもぷのつまうまてうあぷ。
つうりぐぞうりうひうぞーまうりうもうあうまりぷゆうやうりうの紙
おううりべうさーまんのうりうれぷ。ゆどのゆし天ぐにかうーどと
卯ともんべどぷ藤とうなぐうもうりうぷまぷ若ちこううそ
うううひぐうりぷぞぞとあうーうあいあうりうりう
東れ本法師が志とはうり
うれにけんくーまかうーまぷうりーいぜぐうりーーあくれうる。
東の本法師を用ぐうさ八月ようぷ海うう義れはーうんうぐ

これうしのうつひよゆうれい三郎がむかんれうしく
おろうれいぞめんそゆいのくるまそたまれうびと
うつりそぐれうろみりとてどしてきにいろいろ同じくい
みりよりやうたいれわ一きよりきにうつばいうぐよ
うまべさうぞしわひうろ

みうれいち一がゆうりけの事
ううのち一をうをせざうしがつくかぐかくしせ
うんだうとうりつりそゆうけりしてぐうんいうぐぞ
うの通とびたぐしくうぐきうをや

雷様物語巻十終　いとうう　花こぐ元畢